

令和7年度 第1回学校運営協議会 会議録

みよし市立黒笹小学校

1 開催日時 令和7年5月29日(木) 9:45～11:45

2 開催会場 本校校長室

3 参加者

鈴木 久枝 様(黒笹保育園長)
大門樹久世 様(人権擁護委員)
川上 治美 様(青少年補導員)
芹川 友紀 様(民生児童委員)
河隅 貴子 様(青少年補導員)
倉田 琴美 様(民生児童委員)
横本 祥平 様(P T A会長)

(学校側) 校長 江上 俊郎 教頭 中林 優

4 日程

- (1) 日程説明 9:45～9:50
- (2) 授業参観 9:50～10:35
- (3) 協議会 10:35～11:45
 - ・ 教育方針等概要説明
 - ・ 承認、協議

5 協議内容等の報告

(1) 教育方針等概要説明

- ・ 教育目標と経営方針及び本年度の重点努力目標
令和6年度の方針を継続
- ・ 令和7年度 みよし市立黒笹小学校グランドデザイン
テーマ「黒笹小の子どもたちには力がある」

① 子どもの笑顔のために【授業】

- 「たい！」を引き出す授業づくり
 - ・ 魅力的なゴールで「やってみたい！」につなげる
 - ・ 仲間の「分からない・困った」を生かして、みんなで「解決したい！」につなげる
 - ・ 他者参照で学びを深める
 - ・ 自己選択、自己決定の場の設定
 - ・ 振り返りを次の学びにつなげる
- 子ども同士の関わり合いを深める

- ・ 話したくなる聴き方・話したい思いを「ざざっこタイム」で土台づくり
- ICTのスキルアップ
 - ・ 思考をつなぐツールとしての活用、他者参照で学びを深める
- ② 子どもの力を生かした諸活動
 - 学びをつなげる異学年交流
 - ・ 上下学年の交流で「やってみたい！」を引き出す
 - ・ 「あんなお兄さん、お姉さんに近づきたい！」
 - ・ 振り返りをし、子どもたちの言葉を次の活動に生かす。「次は○○したい！」
- ③ 家庭・地域と連携した教育活動
 - 学校運営協議会の立ち上げ
 - 地域学校協働活動の充実
 - ・ 子どもたちの活躍を支援する「黒笹っ子みらい応援団」の充実
 - 地域教材・外部講師を活用した教育活動
 - ・ 地域コーディネーターと、地域教材・人材を発掘し、教育活動に関わることを生きがいにしてもらう
- ④ 職員が力を合わせて児童一人一人を支援する
 - 職員がチームとなって指導・支援にあたる
 - ・ 報告・連絡・相談の徹底
 - ・ 職員一人一人の気付きをつなげ、指導に生かす記録の蓄積・活用
 - 専門的な知見、カウンセリングに基づく確かな支援
 - ・ SC・学びの森専門相談員との連携
 - 互いの気付きを生かしながら、日々取り組む業務改善
 - ・ 教科担任制・学年担任制とそれに伴う教育課程の改訂に向けた検討

(2) 承認

- 全会一致で承認

(3) 協議内容 ・：説明 ○：評価できる内容 △：課題やアイデア

〔学校運営協議会・地域学校協働活動〕

- ・ 地域学校協働活動は、学校の「困った」「もっとうちしたい！」をチャンスに変え、地域の方に助けていただく活動をスタートにしたい。
- ・ 地域コーディネーターには、黒笹っ子みらい応援団の方に担っていただけるようお願いができた。
- ・ 現在も図書室の充実ぶりは、黒笹っ子みらい応援団が地域の方々と連携して成しえたもの。こうした取組を広げていきたい。
- ・ P4 は、地域学校協働活動の例として教員に示したもの。どんなことを地域の方にお願いできるかをイメージできるように作成した。
- ・ 例えば、正課クラブへの講師招聘や、登下校の見守りをいきいきクラブや地域の人に参加してもらえるとありがたいと考えている。
- ・ 学校運営協議会は、地域でできる支援について御提案いただきたい。窓口は教

頭になる。

- ・ 今後は、児童が地域に出て行って活躍する場面も作っていただけたい。

△ 講師は黒笹地区の人に限られるのか。

⇒ 子どもたちのためになるのであれば、いろいろな方に来ていただきたい。

△ 多くの提案が集まったときは、先生方が調整をして、授業に必要なことを選んでいくというイメージでよいのか。

⇒ 立ち上げの期間は、そうしたことが必要になるが、軌道に乗れば、どの時期に、何をお願いするかが、ある程度決まってくると考えている。

○ 授業の流れで「ここで経験をさせたい！」というところで、先生方と調整しながら活動を入れていくということであれば、素晴らしいし、実現していくとよい。地域がサポートしていくと子どもたちもより深い経験ができる。

△ 「こういう方がいますよ」という紹介に対して、学校側でどんな方か面接をしたりするのか。子どもたちと関わることになるので、それなりにきちんとした方であってほしい。

⇒ どんな思いで取り組まれているのか、学校が話をさせていただいてお願いをしていくようにする。

〔研究推進について〕

- ・ 令和6年度までの研究サブテーマ「～『たい！』を引き出す学習をめざして～」でしたが、子どもたちの「～たい！」を引き出して終わりではなく、その思いをつないでいきたいと考え、令和7年度は「～『たい！』を引き出し学びをつなぐ～」とした。
- ・ めざす子どもの姿としては、自立した学習ができること。与えられたことや決められた課題に受動的に取り組むのではなく、自分で課題を見つけ、学習方法を選択して進めていける子を育てていきたい。そのために、友達と考えを比べたり、意見を交わしたりするところが「協働的な学び」の部分となる。子どもたちの「比べて考えたい！」「聴いてみたい！」「伝えたい！」を引き出しながら、協働的に学びをつないでいきたいと考えている。
- ・ 土台として、学習課題が魅力的でないと取り組む意欲が高まらないので、魅力的な課題の設定を掲げてある。
- ・ また、基礎的な力を身に付ける活動を三つ置いている。①「ざさっこプラス」として、ICT機器を活用した「聴く」「話す」のコミュニケーション活動の基礎を養う活動、②「ざさっこタイム」として、ゲーム性のあるルールで会話を促したり、相手の話を聴いて質問したり、理由を添えて回答する「話型」を用いたりする活動、③「ICTスキルアップ」として、キーボード入力だけでなく、授業支援ソフトで用いるカードの送り合いの方法や、「他の人は今、どんな意見をもっているのだろう」ということをタブレット端末を通して他者参照するためのスキルを身に付けるための活動で、朝の帯活動の時間を使って行っている。
- 朝の帯活動で、互いに「聴く」「話す」といった活動を行っているとのことですが、言葉で自分の気持ちを表すことが苦手な子もいる中で、小さいうちから理由

を添えて話す活動、それも楽しい活動で取り組んでいることは評価できる。さきほど例として話があったように、今日の自分の気分を色に表して、なぜその色を選んだのか、ということ客観的に自分の気持ちを捉えて説明するというのは、とても大切な力で、自分の気持ちが分かる、そして言葉で表せるということは、子どもたちにとって必要なこと。

[令和8年度 新教育課程【学年担任制・教科担任制・午前5時間授業】に向けて]

- ・ 子どもたち一人一人をより多くの眼で見守り、支援していくために、学年担任制・教科担任制を導入していくことを検討している。新教育課程で導入されることになれば、兵庫県川西市立多田小学校がモデル校として紹介されるはずで、校長が昨年11月にこの学校を訪問して、参観してきた。
- ・ 経験の浅い先生も一つの学級を一年間担任しているが、その考え方を変換し、多くの教員で学級を見ていくことで、若い先生にも力を付けていってほしいと考えている。
- ・ 現在、育児短時間勤務の教員は午前中だけの勤務なので、担任をもつことが難しいが、学年担任制であれば分担ができる。また、男性も育児休暇を取得する時代となる。多くの眼で子どもたちを見るためには、教員同士の打ち合わせや情報共有の時間をとり、子どもの様子を把握しなければならない。そのために、日課の見直しが必要となる。
- ・ 学年ごとに見ていくと、低学年は学校生活に慣れるために担任は固定で、教科担任としていくつかの教科で専科の教員が入る。3年生からは、学年・教科担任制という形をとりたい。
- ・ 朝の会、給食、帰りの会を学年のいろいろな先生が担当していく。また、2～3週間ごとに、担任が交代するイメージ。そうすると、宿題も学年で統一し、どの先生でも同じにする。通知表は、関わった教員で子どものよさを出し合いまとめていく。懇談会は、担当した教員が一回は保護者と話ができる機会を設定する。
- ・ 多田小学校では、導入時は不安に感じる子もいたそうだが、現在は、実際に子どもたちに話を聴くと「もう慣れた。いろいろな先生と関わって楽しい」と言っていた。多くの先生が自分のことを見てくれているという思いがある。また、多田小学校の先生たちに話を聴くと、他の先生がどのように子どもや保護者に関わったり対応したりしているのかを学ぶことができ勉強になるとのこと。
- ・ 現在の日課と、新教育課程の日課案を見比べていただくと、朝の開始が8:15になっており、授業時間は40分で午前中に5時間の授業を行う。「子どもたちは疲れないか」と思ったが、多田小学校の子どもに聴くと「この方がいい。この方が集中が続く。午後に2時間授業がある日課に戻されるのは嫌だ」と言っていた。45分の授業が40分になるところは、「黒笹っ子タイム」という20分の帯時間に、例えば、授業の中で行っていた算数の計算演習をこの帯時間に実施するというように、授業の一部を帯時間で取り組んでいくという形になる。
- ・ 本校の児童はICT機器の活用能力が高いので、授業の中で子どもたちの意見を聞きたいときは、タブレット端末で一気に集約し、その中で「この子の意見を聞

いてみたい！」という意見を取り上げていく方法で時間を短縮できるので、導入がしやすいと考えている。また、理科の実験の際などは、2時間続きの時間割にすることで対応していく。

- ・ 午後の日課は、帯時間と授業1時間で下校となる。下校時刻が早くなるので、その分を学年部の情報共有の時間にし、翌日に担当する教員が変わっても対応できるようにする。
 - ・ 多田小学校では、子どもたちは下校後、習い事に行くことが多いそうで、下校時間が早いので、習い事に行く前に、遊んだり、ゆっくりしたりする時間がとれると言ってみえた。子どもたちは、過ごしやすいということであった。
 - ・ こうした日課の変更については、みよし市教育委員会にも相談しており、支援してもらえるとということを聞いている。
 - ・ 今後、保護者にアンケートを行い、さまざまな意見が出てくると思うので、Q&Aを作成して説明をしていき、できることなら導入していきたい。
- この地区でも習い事に行っているお子さんは多い。1年生でも、3時に下校して、それから習い事に行くと戻ってくるのが5時とか6時となる。下校後に余裕ができれば、先に宿題を済ませたり、友達と遊ぶ時間にしたりできる。子どもたちにとってはゆとりができる。
- 子どもが宿題に取り組む様子を見てみると、集中しているのは20分くらい。そうすると、学校の授業が40分でも、他のことに影響がないのなら、時間の長さとしてはよいのではないか。
- ⇒ 授業の充実というのは大前提。現在取り組んでいる授業研究と新教育課程の日課はリンクしていける内容だと考えている。
- △ 朝の会が8:15からということは、登校時間も早くなるのか。
- ⇒ 登校時間は変えずに、朝の外遊びの時間をなしで、朝の会を始める形になる。そうすると、朝、図書室で本を借りる時間がなくなるので、そういった部分は今後教員間で詰めていきたい。
- △ 働いてみえる親御さんは、今までだと、例えば午後3時まで働いていたのが、下校が早くなると時間を変えないといけなくなる。
- △ その点は、児童クラブを利用される家庭が増えるか、働く時間を変えられるかは、ご家庭の判断になるのではないか。
- ⇒ 多田小学校でも保護者のお勤めの時間を調整していただいた、ということは聞いている。実際に、児童クラブを利用されるお子さんが増えたということも聞いている。なので、そうした受け皿が整うように市教育委員会とは連携していかなければいけないと考えている。
- △ そうなると、ふれあいセンターや集会所に行く子も増える。岡崎市藤川小のように児童クラブと集会所が併設されていれば、「ランドセル下校」という形で、学校からそのまま集会所に行くことができる。そうすると、児童クラブに入れない子が隣接している集会所に居させてもらうことができるのだが。児童クラブは待機児童がいる状態なので、受け入れが心配。
- △ 保育園でも0歳児や1歳児の預かりが増えている。希望が多くは入れない状況

も出ている。黒笹地区は午後4時以降も預かりを延長される就労家庭が多い。なので、保育園での状況は、そのまま児童クラブや集会所を利用する子どもが今後増えていくことにつながっている。

- 現状と課題についての説明で、保育園でも若い先生を採用後すぐに担任にするのは大変なので、ベテランの先生とペアになったり、学年のフリーの先生が入ったり、子どもから離れる時間「ノンコンタクトタイム」を導入し、担任だけど子どもから離れて作業ができる時間をつくったりして、その間は他の先生が担任に入って、チームとして子どもを見ている。なので、そうした課題から学年・教科担任制を導入するのはよいことだと思う。

6 今年度学校運営協議会の予定

- | | | |
|------------|---------------|--------|
| 第2回学校運営協議会 | 令和7年10月30日（木） | 9時45分～ |
| 第3回学校運営協議会 | 令和8年 2月 5日（木） | 9時45分～ |